

保育・教育現場における発達の視点に基づく評価(2023年度東北学院大学文学部教育学科連続公開講義「教育評価を考える」第2回)

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2024-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 千枝 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/2000151">https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/2000151</a>

2023年東北学院大学文学部教育学科連続公開講義「教育評価を考える」第2回  
2023年10月28日(土) 13:00~14:30

## 保育・教育現場における発達の視点に基づく評価

Assessment based on a developmental perspective in childcare and educational settings

講師：高橋 千枝（東北学院大学文学部教育学科）

TAKAHASHI Chie

キーワード：社会性発達, アセスメント, 振り返り

Key words : social development, assessment, reflection

本報告は、2023年10月28日に実施した、東北学院大学文学部教育学科の連続公開講義（以下、公開講義）「保育・教育現場における発達の視点に基づく評価」の内容をまとめたものである。

### 1. 幼稚園教育要領・小学校学習指導要領から捉える評価

公開講義ではまず幼稚園教育要領や小学校学習指導要領等をもとに発達の視点に基づく評価とはどのようなことを考えてみた。発達の視点に基づく評価とは、子ども一人一人の発達の理解に基づいたものであり、子どもを多角的に捉え、一人一人のよさや可能性を把握するものであり、他の子どもと比較したり、何らかの基準を設け、その基準に対する達成度等で捉えたりするだけでは十分とは言えない。また、ある事柄を習得するまでのプロセスや状態を把握することでもある。そして何よりも大切なことは、子ども達を評価することにより、子ども達の学習意欲が高まらなければならない。評価することにより、子ども達の学習意欲が低下したり、自己肯定感が低くなったりすることは、保育・教育現場における評価とは言えないのである。加えて、保育者や教育者にとって自分自身の保育や教育の振り返りとなることも評価の重要な点である。

### 2. 社会性発達チェックリストにおける評価

次に本郷ら（2016）の調査に基づき、社会性発達チェックリストを使用した幼児期の社会性発達の評価について検討した。社会性発達とは人が物との関係ではなく、人との関係を持つことができること（発達心理学辞典）であり、社会の規範や慣習などに適合した行動が取れるようになること（井上・久保, 1997）であるが、その土台には「人と共に在る

と感じ、楽しいと思えること」(長崎, 2013)があると考えられる。そしてその社会性が発達するには集団が必要であり、今日の保育所・幼稚園・認定こども園・学校は子ども達の社会性発達に重要な役割を担っている。本郷らの調査では、保育現場において配慮が必要だと思われる幼児はどのような行動特徴があるのか、またどのような配慮が必要か等を検討しており、結果は、個別に配慮が必要だと考えられる子どもは、集団活動の中で友達と協力して遊ぶことや集中して先生の話の話を聞いたりすることが苦手であり、また順番を待つことや、自発的に他者に謝ること、友達と相談したり妥協したりしながら一緒に遊ぶことも難しいことが明らかとなっていた。個別に配慮が必要な子ども達への支援を考える際には、このような社会性発達の側面からのアセスメント(評価)が重要なことがわかる。また類似した調査を児童にも実施している研究、とりわけ児童期の情動に焦点を当てて実施した調査(本郷ら, 2020)も紹介し、配慮が必要と考えられる児童は情動を抑制することも難しいが情動を理解することも難しいということが明らかとなっており、情動発達の観点からのアセスメント(評価)も子どもたちを理解するために重要であることがわかった。

### 3. まとめ

個別に配慮を必要とする子ども達は、言語・認識には問題ないが対人関係が苦手だったり、人の感情がうまく理解できなかつたりといった特徴を示すことが多い。そのため知的側面をはかる検査や学習成果をみるテスト等では見逃してしまう可能性がある。検査やテストに加え、子どもが過ごしてきた時間軸や子どもが関わってきた人との関係性、また学校・家庭・地域といったシステムを捉えるといった発達の視点を持ち、特定の方法で理解せず、多角的・総合的にとらえること、集団の中でいろいろな側面から評価をすることが重要である。そのためには集団が必要であり、保育・教育現場こそ、子ども理解の場であるといえる。保育・教育現場には、子ども自らが主体的に外界へ働きかけられる環境があり、同時に外界から肯定的なフィードバックを受けることができ、何よりも子どもが楽しいと思える環境がある。個別に配慮を必要とする子ども達もそうでない子ども達も、全ての子ども達に支援可能な場が保育・教育現場なのである。

### 4. おわりに

公開講義には保育者・教師・学生といった様々な背景を持つ方々が参加して下さったため、本講義の終盤は複数のグループに分かれてグループワークも実施した。どのような評価(アセスメント)が保幼小連携に必要なか、また自分が評価される側に立ってみた際に、どのように評価されたいか/されたくないか等についても議論し、日々の保育・教育の振り返りまた有意義な情報交換を実施することができた。

(講義で使用した引用参考文献は、本報告では紙面字数の都合により割愛した。)